

令和6年度 徳島県立城北高等学校 第3回学校運営協議会

令和7年3月18日(火) 17:00～

於：校長室

出席者(委員) 敬称略

市岡沙織(市岡製菓株式会社 代表取締役社長) [欠席]
大栗一敏(徳島市城西中学校 校長)
寺澤昌子(徳島県立城北高等学校 校長)
中木一文(株式会社基礎建設コンサルタント 代表取締役)
藤本真路(国立法人徳島大学 理事、副学長)
美馬持仁(国立大学法人鳴門教育大学 理事、副学長)
山崎眞弘(徳島市千松小学校 校長)
木村昌宏(徳島県立城北高等学校 P T A会長代行)

(1)開会

(2)会長挨拶

(3)校長挨拶

(4)協議 進行(藤本会長)

① 令和6年度11月以降の学校運営状況について

・11月以降の主な行事、部活動等の入賞記録

・卒業生の進路状況

喜枝教頭) 卒業生の進路状況について説明。

美馬委員) 基礎学力をつけることが重要だ。入学後、中学校の復習から初めて、秋までにしっかり学力を伸ばす工夫をする必要がある。

寺澤校長) 低学年の担任の役割は大きい。経験が少ない担任であっても、生徒がやりたいことを見つけ、やりたいことをやるためにどのような力を身につけさせればよいのか等、豊かな進路指導ができるような仕組みを整えたい。

美馬委員) 1年次に勉強の仕方を教えたり、モチベーションを上げさせたりすることが重要だ。教科会を充実させて具体的に考えてほしい。

② 45分授業の検討について

多田教頭) アンケート結果の説明。

大栗委員) 45分授業には様々なメリットがある。教員の働き方改革も当然重要なことだが、教員が今までの指導方法を工夫・改善することで、よりわかりやすい授業に繋がり、生徒の学力向上にも直結する。

寺澤校長) 授業改善の推進は課題の一つだ。一斉指導だけで授業をするのではなく、授業の中でも個別最適化を進めることが必要になると考えている。また、削減した35分の活用についても、生徒自身が様々なプログラムの中から自分の進路に必要なものを選び、活動の振り返りを通して、その効果を自分の言葉で語る力を培うことができるようにしたい。

美馬委員) 限られた時間内で、生徒に力をつけるためには、授業内容を精選するだけでなく、授業に対する意識を根本的に考え直す必要がある。生徒が自学・自習し、学びに対するワクワク感や自立感を持たせるために45分授業を実施するという目標が明確でなければならない。同様に「総合的な探究の時間」を充実させることも必要だ。非常に大きな改革だが、教科会等を通して具体的な対策を考えてほしい。

- 寺澤校長) 学校評価アンケートの教員の授業に関する自己評価が低い傾向にある。効率よく覚えさせて問題を多く解かせるというやり方だけでは、生徒の力を伸ばせている実感がないと感じている教員は多い。教員全員で対策を考える必要がある。
- 木村委員) 先生方が多忙で、生徒が質問や相談に行くのをためらうことがあると聞いている。削減した35分の時間を活用して、生徒が自分から質問・相談に行くことができる窓口があれば、生徒の学ぶ意欲の向上につながる。また、45分授業を実施する中で、生徒や保護者・先生方の意識の変容等の中間評価を行い、共有してほしい。
- 寺澤校長) 企画調整委員会でも期間を区切って成果指標を設定した方がよいという意見があったので、導入前に決めておきたい。小・中学校の学びとの連携や継続性を考えることも必要だと考えている。
- 藤本会長) 指導方法の見直し等で教員の負担が大きいのではないかな。
- 寺澤校長) 45分授業を実施している学校と情報共有をしながら進めたい。
今後職員会議の議題とした上で、来年度の第1回学校運営協議会・PTAでも説明し、5月には決定、夏以降の生徒募集で説明できるようにしたい。

③ 令和6年度学校評価表について

- 佐野) 学校評価表について説明。
- 美馬委員) 基礎学力に関するアンケート項目があるが、基礎学力とはどのようなものか、生徒も保護者も曖昧な状態の可能性はある。具体的な指標を示してアンケートを実施して分析することが必要だ。
- 藤本会長) 研修会を評価指標にする場合、回数ではなく、参加率や研修後の意識の変容を指標にした方がよい。
- 美馬委員) いじめに関するアンケートは難しく、誰が見るかによって回答の書き方が変わる。大学に専門家がいるので、相談・活用してほしい。
- 木村委員) 保護者に対していじめに関するアンケートがあってもよいのではないかな。学校と保護者の協力体制ができればよりよいと思う。
- 山崎委員) 小学校でも学校評価アンケートで、児童のアンケートに連動して保護者アンケートを実施し、比較・分析している。
- 藤本会長) 45分授業に関するアンケートでは保護者の回答数が少なかったが。
- 寺澤校長) 今年度からICTを活用したアンケートを実施したが、回収率は下がった。
- 大栗委員) ICTを活用するとアンケートの回収率は下がる。一方で、自由記述は増える傾向にあるため、より具体的な意見を聞くことができる。
- 藤本会長) 特別活動の項目において、評価指標が少ない。部活動での活躍も多く、生徒が主体となる様々な活動をしているので、評価指標を増やしてもよいのではないかな。
- 木村委員) 昨年度から生徒総会を実施しているが、生徒が意見を述べる場があるということは非常によいことだ。
- 中木委員) ICTの活用による教員の業務の効率化は、今後も継続してほしい。
- 美馬委員) 授業等でのICTの活用が学力向上に直結するとは限らないが、ICTをツールとして使うことは生活力として必要だ。
- 木村委員) ICTの活用によって、字を書くことや人の目を見て話すことができなくなっているのではないかと危惧している。
- 美馬委員) 外部講師による講演は、生徒たちに物事を考えさせ、おもしろい世界があると気づかせるものだ。生徒が様々な世界を知ると、やる気に繋がる。生徒の意欲をかきたてるような人の話を聞く機会を設けることが大切だ。
城北高には、建学の精神などの伝統や歴史など唯一無二のものがある。生徒自身が掘り下げて調べ、外部に発信する機会があるとよい。学区制が廃止された後、選んでもらえる学校になることが必要だ。

(5)閉会